

基礎講座ニュース

第2回 子どもの遊びと関わり

日時 5月28日(木)

受講者 9名 考える会 2名

◎講座内容

ねらい： **子どもが遊びの主体であること、そこに指導員としてどう関わるのかを学びます。**

◎放課後＝学校の『課業』から放たれた時間

- ・学童保育では、子どもが「放課後」という自由・解放感・自発的・空間的な広がりのある時に生活している特性をふまえ、遊びを大切にし、子どもたちの自主性を重んじたり、興味や関心・願いを受けとめた生活を子どもたちと共につくっていくことが求められる。

◎子どもたちのにとって『遊び』は楽しいものであること

- ・豊かに遊ぶ力を身につけていくには、一人ひとりが生き生きと過ごす力をつけることが必要
- ・自分で自らの過ごし方を考え、自分で決定していくことは、子どもの成長・発達に欠かせない大切なもの

◎遊びの働きかけ その気にさせること

- ・管理や強制ではなく、子どもの自身と意欲を引き出せるような援助を行うこと。
- ・大人の世界は結果が重視されがちだが、子どもにとっては過程が大事である。
- ・指導員は、子どものやる気を奪わないこと。

◎受講者からの振り返りシートより(一部抜粋)

- ・これまでの保育では、得意な遊びや対応できるものごとにしか向かってこなかったような気がする。これでは子どもに教える、というより（正確には支援員は子どもに何かを教える立場ではないが…）、子どもに学ばせてもらう立場である。
- ・改めて遊びは子どもたちの成長にとっても大切なものであると学びました。私はこれまで、子どもたちが安全に過ごせるよう見守ることを意識してきましたが、遊びには子ども自身が考えたり、工夫したり、友達との関わりを深めたりする大切な役割があることを再認識しました。
- ・遊びはとても大切でその遊びをやってみたいなと思ってもらえる様、声かけや、工夫が大事で必要だなと思いました。何より楽しくなければいけないので一人一人に合ったその子が楽しめる遊びを考え、提案しすぎずに「遊んで！！」と来たら、まず「何しようか？」と返答しています。
- ・学童保育では子どもが放課後という自由・解放感・空間的な広がりのある時間の中で「遊び」がとても大きく重要な位置を占めているという事を学びました。子ども達のやりたい事は多種多様で遊びの種類も相手もその日、その時で変化します。なによりも大事なのは、子ども自身が楽しいと思えること、そして「遊び」は基本的に自由であるという事を改めて気付かされました。
- ・様子を見守りながら他の子どもの対応をしていったり、視野を広く持つことで一人ひとりとの関わりの時間を作ることができると思うので今日から意識していきたいと思います。

次回は、6月25(木)に行われた、第4回の講座について、お伝えします。